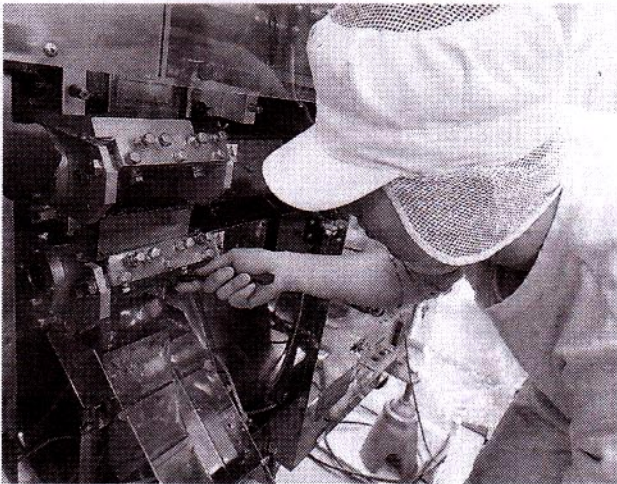


第3種郵便物認可



販路開拓 アイデア勝負

松阪「三重化学工業」 防寒手袋・保冷剤

Made in みえ

個性派メーカーの仕事

8

ゴムや皮でできた冬場に重宝される作業用防寒手袋と、蒸し暑い夏場に大活躍する生鮮食品用の小型保冷剤。いずれも松阪市の化学メーカー「三重化学工業」

様々な形状の保冷剤をつくる従業員
 松阪市大口町、三重化学工業提供

業」が国内でトップシェアを誇る商品だ。

1956(昭和31)年創業。

2008年には、保冷剤を製造する国内14社とともに「日本保冷剤工業会」を立ち上げ、山川覚社長が初代会長に就任した。

従業員45人。海外にも協力工場はあるものの、直轄の生産拠点は少ない。生産力では大企業に太刀打ちできない。そこで活路を見いだしたのが、「ニッチ市場」と呼ばれる特定の需要と客層に支えられた小規模市場だった。

山川社長は「中小企業が生き残るには、市場の隙間を自ら見つけ、自ら商品を開発し、自ら販路を開拓するしかなかった。とにかくアイデア勝負だった」と振り返る。

70年に生産を始めた防寒用手袋は、気密性が高いゆえに「蒸

れる」「臭う」という欠点を解消しようと、二重構造にして地肌に触れる部分を洗濯できるようにした。これが爆発的なヒットにつながった。

83年から本格的に売りだした小型保冷剤は、「生鮮食品を冷やすのに、氷よりも持続性が高く、何度も使えるものを」という柔軟な発想のためものだ。

中国企業などの安い商品に対抗するために、将来的には海外に工場を建設する可能性もある。ただ、地元への強い愛着を従業員全員が抱く。その証拠が、防寒用手袋の商品名「ミエローブ」に表れている。

「この地域にいたからこそ人に恵まれ、アイデアに恵まれた。『メード イン マツサカ』であり続けることが使命だと思う」。山川社長は力を込めて。(安田琢典) 〓おわり